

住民協議会との連携による親子の居場所づくり

(担当：子ども政策部児童青少年課東多世代交流センター)

事業の背景・目的

【背景】 施設の改修工事中の親子ひろば開催の一時的な代替え場所として利用したコミュニティ・センターにおいて、改修工事後も継続して定期的に親子ひろばや子育て支援講座等を実施している。初めは児童館の単独事業として開始したが、住民協議会の希望や地域ニーズもあり、2年目には連携事業として位置づけ、乳幼児親子の居場所として定着しつつある。

【目的】

- ・主に、居住地域等の理由により児童館を利用しにくい乳幼児親子を対象に子育て相談やあそびの提供、子育て支援講座などをおこなう
- ・住民協議会と連携し事業をおこない、子育てをきっかけとしたさまざまな世代の交流を図る

事業の概要

【実施場所】

- ・住民協議会が運営する地域コミュニティ・センター遊戯室
- ・設営のための備品や遊具、玩具、絵本などは児童館のものを使用。公立保育園の出前保育(あそびとおしゃべりの会)の物品も一部供用している。大型物品は、コミュニティ・センターに置かせてもらい、事務用品や小さい玩具、体温計、消毒用品などは毎回運ぶ。

【実施頻度】

原則として 週1回 10:00～12:00

【職員体制】

児童館職員 1名

保育者 1名(住民協議会から派遣)

住民協議会のスタッフ 1～2名

【事業実施方法】

- ・直営
- ・主に0,1歳児親子を対象として親子ひろばを開催。児童館職員と住民協議会のスタッフが、親子と一緒に過ごしながら子育て相談やうた、手遊び、絵本の読み聞かせなどをおこなう。

ただし、現在は新型コロナウイルス感染症対策として、シニアスタッフと乳幼児や保護者との交流は積極的に行っていない。

工夫点・留意点

- ・新型コロナウイルス感染症対策の徹底
- ・住民協議会との情報共有
- ・定期的な話し合いの場を設け、事業評価と次年度に向けた方向性の確認をおこなっている
- ・「親子の居場所づくり」としての乳幼児親子ひろばの他に、ボランティア団体と連携し小学生のための昔遊びの会やオンラインを活用した工作教室、作品の展示などを実施している。

<コミュニティ・センター親子ひろば>

(ベビーマッサージ)



<オンライン工作教室の作品展示>

(みんなのギャラリー)



事業の効果

【効果】

- ・幅広い地域からの利用
- ・小規模なひろば開催のため、0.1歳児でも落ち着いて遊べ、ゆったりとした雰囲気の中で相談できる
- ・住民協議会のスタッフが生き生きと活動に参加し、地域課題について一緒に考える機会を持つことができる

課題・今後の展開

- ・住民協議会のスタッフが主体的に事業を運営するための連携強化
- ・小学生の居場所づくり（放課後、土日含む）
- ・市内各地域のニーズや課題に応じた連携